

「生涯活躍のまち」構想について

「生涯活躍のまち」構想の背景

【 地方創生にかかる課題 】

- 総人口の減少
 - ・ 人口の減少幅が年々拡大
 - ・ 合計特殊出生率の低下、出生数の低下
- 東京への人口の一極集中
 - ・ 地方から東京圏への転入が増加し人口が集中
 - ・ 特に若年層の流入が大きい
- 地域間の経済格差
 - ・ 賃金、就業者数、有効求人倍率などの格差
 - ・ 地方を中心とした人で不足の顕在化



【 地方創生のための取組みの方向 】

- 1 地方における安定した雇用の創出
 - ・ 地域経済の活性化に向けた取組 など
- 2 地方への新しいひとの流れをつくる
 - ・ 地方移住の推進
 - ・ 政府関係機関の移転 など
- 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ・ 出産・子育て支援、若い世代の経済的安定 など
- 4 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
 - ・ まちづくり・地域連携 など

「生涯活躍のまち」構想とは？

「生涯活躍のまち」構想とは、「東京圏をはじめとする地域の中高年齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すものです。本構想の意義としては、①中高年齢者の希望の実現、②地方へのひとの流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の3点があげられます。

※「生涯活躍のまち」構想の推進のため、国では、平成 27 年 2 月より有識者や関係省庁が参画する「日本版 CCRC 構想有識者会議」が開催され、平成 27 年 12 月に「生涯活躍のまち」構想に関する最終報告が取りまとめられました。平成 28 年 4 月改正の地域再生法には「生涯活躍のまち」の制度化のための措置が盛り込まれました。

- 「生涯活躍のまち」構想は、あくまでも住み替えの意向のある中高年齢者の希望の実現を図る選択肢の1つとして推進するものであり、中高年齢者の意向に反し移住を進めるものではありません。
- また、地方にひとが流れることによる「地方創生」実現に向けた取り組みの一つとして位置づけられています。



「生涯活躍のまち」構想と従来の高齢者施設等との基本的な違い

「生涯活躍のまち」構想は、単に高齢者のための福祉施設を整備するという発想ではなく、中高年齢者が主体となって、地域社会に溶け込みながら健康でアクティブな生活を送ることができるコミュニティづくり・まちづくりを行うものです。

	従来の高齢者施設等		「生涯活躍のまち」構想
居住の契機	<ul style="list-style-type: none"> 主として要介護状態になってからの入所・入居 	⇔	<ul style="list-style-type: none"> 健康な段階から選択可能 
高齢者の生活	<ul style="list-style-type: none"> サービスの受け手として「受身的な存在」  	⇔	<ul style="list-style-type: none"> 地域の仕事や社会活動、生涯学習などに積極的に参加する「主体的な存在」（支え手としての役割）
地域との関係	<ul style="list-style-type: none"> 住宅内で完結し、地域との交流が少ない 	⇔	<ul style="list-style-type: none"> 地域に溶け込んで、多世代と交流・協働するオープン型 

「生涯活躍のまち」構想の基本方向

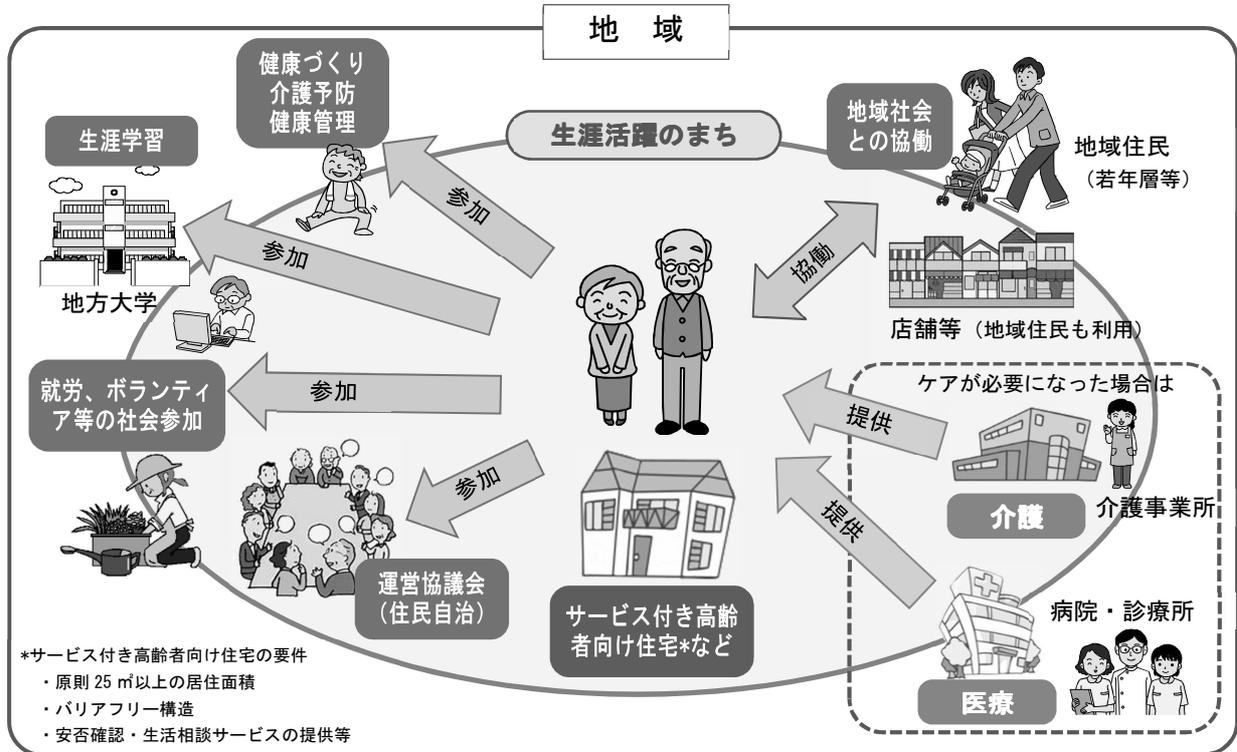
「生涯活躍のまち」構想では、以下の7点を基本コンセプトとしています。

<p>①東京圏をはじめ地域の中高年齢者の希望に応じた地方や「まちなか」などへの移住支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住希望者に対してきめ細かな支援を行う。東京圏等から地方へといった広域的な移動を伴う移住のみならず、「まちなか」への転居など地域内での移動を伴う取組も想定。 	<p>④「継続的なケア」の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療・介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。重度の要介護状態になっても地域に居住しつつ介護サービスを受けることを基本とする。
<p>②健康でアクティブな生活の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な段階からの入居を基本とし、目標志向型の「生涯活躍プラン」に基づき、健康づくりや就業、社会的活動、生涯学習に主体的に参加することを旨とする。 	<p>⑤「IT活用などによる効率的なサービス提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療・介護人材の不足に対応し、ITや多様な人材の活用、中高年齢者などの積極的な参加により効率的なサービス提供を行う。
<p>③地域社会（多世代）との協働促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者*が地域社会に積極的に溶け込み、子どもや若者など多世代との協働や地域貢献できる環境を実現する。ソフト面全般にわたる「運営推進機能」の整備や地域包括ケアシステム関連施策との連携も重要。 	<p>⑥入居者*の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者自身がコミュニティの運営に参画するという視点を重視。
	<p>⑦構想の実現に向けた多様な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報支援、人的支援、政策支援により構想の具体化を後押し。

*「生涯活躍のまち」構想では、「生涯活躍のまち」へ移住や住み替えをした者や希望する者（主に中高年齢者）を「入居者」としています。

「生涯活躍のまち」における中高年齢者の生活（イメージ）

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、
③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

参考資料：「生涯活躍のまち」構想（最終報告）【日本版 CCRC 構想有識者会議、平成 27 年 12 月】